

A: ほぼ達成できた  
B: 概ね達成できた  
C: やや不十分である  
D: 不十分である

<b>1 学校教育目標</b> 「豊かな心を持ち 個性に富み 逞しく生きる」児童の育成 ～自分が大好き、友だちが大好き、学校・地域が大好きな 東脊振の子～	<b>2 本年度の重点目標</b> ① 自分づくりの推進(児童理解・支援の推進) ② 学びづくりの推進(道徳授業の推進と学力向上) ③ 仲間づくりの推進(豊かな体験活動の推進)
---	---

3 目標・評価

① 特色ある学校づくりの推進

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校運営	○学校経営方針	本年度の重点目標の周知	・教職員、児童、保護者に周知する。 ・認知度を85%以上にする。 ・メール登録98%にする。 ・学級懇談会参加4割を目指す。(H28 2割～3割)	・学校便り、PTA総会、学級懇談、学校ホームページ、まちCOMIメール帳等で機会あることに周知していく。 ・学級懇談会等への参加の呼びかけ。	B	・学級懇談会出席者が少ない。 ・学校便りへの関心は高く、方針が浸透しつつある。	・学級懇談会の持ち方を工夫する。 ・メール加入率100%のために、未加入者に機会を捉えて個別に働きかける。
学校運営	○校内研究の推進	・校内研究(道徳)の推進	・全職員が昨年度までの研究の成果と課題を理解し、年1回以上の研究授業をする。	・外部講師から適宜指導をうけ、ねらいが明確な指導案を作成する。 ・授業者を含めた学年組織による授業づくりに取り組ませ、一人一人の力量を向上させる。	B	・職員の研究を計画的に推進できなかったことを申し訳なく思っている。研究主任の私のタイムマネジメントがうまくいかなかったことで、年間を通して、すべきことが遅れてしまった。先々提案しなければならなかった。	・研究推進委員会の開催回数を増やし、念密な計画の下に実施していく。

② 自分づくりの推進(児童理解・支援の推進)

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校運営	●生徒指導の充実	予防的・開発的な生徒指導の推進	・「よさを見抜き、認め、伸ばす」支持的風土のある学級、学年経営を基盤にし、自分のよさに気づき、自己肯定感を高めたい。(H28 「4」評価は4.8、7%)	・教育相談的指導による問題行動や不適応への予防をする。 ・全職員による情報共有を行い、とチームによる即時指導を徹底して行う。 ・児童理解の会等で、児童理解に努め、指導体制を整える。	B	・年間を通じた指導目標に加え、月ごとの重点目標を示して指導の徹底を行ってきた。 ・問題行動については、連絡会を活用して全職員に周知徹底を図った。 ・予防的・開発的な部分については、指導例や活動例を示すなど来年度に向けての検討の余地がある。	・児童一人ひとりのよさを見つけ、自信を持たせる活動を推進する。特に児童同士の関わりを豊かにしていく。
教育活動	●いじめの問題への対応	早期発見、早期対応体制の充実	・本校の学校いじめ基本方針を、いじめの認知・覚知に対する対応マニュアルも含めて充実させ、対応の迅速化を行う。	・いじめの認知・覚知に対する教員意識を変えるため研修を行う。 ・毎月アンケートを実施し、早期発見ができる体制を作る。 ・開発的な生徒指導により、自己肯定感を高め、良好な人間関係を形成していく。	B	・月に1回のアンケートにより実態把握に努めた。 ・担任のみの把握に終始している部分もあるので、職員間の共通理解の方法について検討の余地がある。	・いじめ対応の教員研修を実施。 ・「いい日」アンケートに書かれた内容の共通理解をすすめる。
教育活動	●心の教育	・あいさつの励行 ・相手を思いやった言葉遣い	・「あいさつがよくできた」と言える児童を80パーセント以上にする。(H28 「4」64.3%) ・「～さんづけ」や「正しい言葉遣いができた」と言える児童をそれぞれ70パーセント以上にする。(「4」41.7%)	・毎月の生活朝会で話題にする。 ・児童会であいさつ運動に取り組み、意識を高める。 ・学習の場において正しい言葉遣いを身に付けさせ、普段の生活の場でも活かすようにする。 ・学校の取り組みを保護者に周知し、家庭と連携した取り組みを推進する。	B	・児童の自己評価は8割以上がしているが、保護者はあまり思わないとの回答が多い。 ・自分から元気よく挨拶することができる児童も増えてきたが、まだ充分ではない。	・家庭や地域と連携したあいさつ運動の取組。 ・小中連携でのあいさつ運動の取組。

③ 学びづくりの推進(道徳授業の推進と学力向上)

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	◎教育の質の向上に向けたICT活用教育の実施	学力向上につながるICT利活用の研究	・アンケート調査を実施し、ICT利活用により学習意欲が高まったという児童の割合を90%にする。	・教員同士で教材の開発を協力・共同して行い、常に改善できるような素地を作る。 ・道徳の学習にもICTを取り入れる。	B	・電子黒板、電子教科書の活用は全教職員が一定レベルで行うことが出来るようになった。今後、さらに効果的な活用を図っていく必要がある。	・効果的な活用について実践事例についての研修。
教育活動	●学力の向上	指導方法の改善	・教員の指導力を高め、自分の学習に自信がある」と言える児童の割合を80%以上にする。	・「東脊振授業」の徹底。 ・学習指導において、学び合う活動の時間を積極的に取り入れる。 ・中学校と連携した「家庭学習ががんばろう週間」の実施	B	・基礎基本の定着が充分とはいえない児童の割合がやや高い。 ・学習状況調査結果では、県平均に達しない学年、教科、領域が多い。 ・がんばろう週間の取り組みを計画的に実施した。保護者のコメントを紹介し、関心をもってもらうように努めた。	・「東脊振授業」の徹底を図る。 ・級外と担任とが連携して補充学習の充実を図る。
教育活動	○読書の定着	読書活動の推奨と積極的な図書館活用	・図書貸出しにおいて目標冊数を設定し、奨励する。 (低…150冊、中…100冊、高…80冊) ・家庭での読書習慣を定着させる。 (H28 定着5割程度)	・「図書館だより」で本を紹介したり、図書に親しませるために図書館まつりを年3回実施する。 ・家庭読書を促すために、本(図書・新聞・雑誌等)を通じた親子交流に取り組ませる。 ・本の分類について指導し、図書の時間に貸し出しをすることで、読書の幅を広げさせる。	B	・多くの児童が図書の時間を楽しみにしている。学年目標の冊数を超えた児童も多い一方、自主的な読書が定着していない児童もいる。 ・児童の自己評価、保護者評価共に、家庭での読書が定着していないと答える児童が多い。	・読書を好まない児童にも、その楽しさが伝わるように指導を継続する。 ・バーコード導入の利便性を生かして、高率より貸し出し業務を行う。 ・家庭と連携した読書指導。

④ 仲間づくりの推進(豊かな体験活動の推進)

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●健康・体づくり	運動機会の確保と規則正しい生活習慣の確立	・课间や昼休みにおいて、「元気に体を動かした」と言える児童の割合を85パーセント以上にする。(H28 「4」68.1%) ・「早寝」「早起き」の児童の定着率を85パーセント以上にする。(H28 「4」64.8%) ・児童の「朝食喫食率」は95パーセントを目指す。	・外で遊ぶよう休み時間に声をかけたり、体育委員会で学校みんなで遊ぶ日を設定したりする。 ・お便りによる家庭の啓発	B	・天気のいい日には、体育委員会が外遊びを促す放送をしており、多くの児童が外で遊んでいる。 ・体力テストの結果、握力や持久力には課題がある。 ・朝食はほとんどの児童が食べている。 ・冬季には多くの児童がなわとびに動いている。	・体力テストで充分ではなかった種目を共通理解し、体育等の運動に取り入れる。 ・昼休み等の外遊びを奨励していく。
教育活動	○家庭、地域との連携	地域と自分との関わり郷土愛	・「東脊振のことがよくわかった」「東脊振に住む人々のありがたさに気づいた」と言える児童の割合を80パーセント以上にする。(H28 「4」62.6%)	・生活科や社会科、総合学習に地域素材を導入する。 ・学びの中で、人と自然にかかわる場面を設定する。 ・道徳との関連を常に考慮して指導する。 ・地域人材の活用	A	・児童は吉野ヶ里町のいいところがわかるようになった。と8割以上が答えている。 ・生活科や社会科、総合的な学習の時間を中心に、地域素材を学習に取り込んできた。地域や保護者の協力も厚い。	・地域や保護者との連携を強化し、学修活動の中に参加してもらう。
教育活動	○集会や縦割り班活動の充実	所属感や連帯感、互いを思いやる心の育成	・アンケートを実施し、思いやりや友だちを大切にしていると言っている児童の割合を95%にする。	・集会活動において、児童が企画、運営に携わる機会を増やしていく。 ・縦割り掃除、縦割り遊びや縦割り栽培活動の機会を捉えて全職員で指導する。	A	・高学年児童を中心とした集会活動が活発になった。 ・一人ひとりが活躍する場面が増えた。	・集会活動が活性化してきた。保護者の参観の機会を増やし、さらに充実させていく。

⑤ 小中連携の推進

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	○小中連携	子供の活動づくり	・児童生徒会本部を中心として、小中合同の行事を充実させ、仲間意識の向上を図る。	・児童会、生徒会の交流を行う。(あいさつ運動、募金) ・中学校文化祭への参加(6年) ・除草作業を共同実施する。	B	・6年生の中学校文化発表会への合唱での参加は盛況だった。 ・小中合同の除草作業は定着してきた。 ・児童会と生徒会の交流を活性化させた。	・中学校との連携を充実させる。相互に担当者を設定して計画的に実施していく。
		9年間を見通した教育活動の展開	・教職員の交流を活性化させ、指導体制の連続性を図る。	・授業研究会等、各種研修会を合同で実施する。 ・生徒指導の決まり、学習の決まりの連続性を図る。 ・小中連携推進委員会を毎月開催する。	A	・相互の研究授業を参観し合うことは定着してきたが、時間設定が難しく、十分な交流は出来なかった。 ・小中剛での研修会は定着してきた。また、効果的に学びあうことができた。	・合同の研修会を継続していく。 ・授業を相互に見合う機会を増やす。

●は共通評価項目のうち必須項目、◎は共通評価項目のうち特定課題、○は独自評価項目